

議事概要

1 会 議 名	令和 6 年度第 1 回太宰府市歴史的風致維持向上協議会
2 開 催 日 時	令和 6 年 1 0 月 2 3 日（水） 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 1 5
3 開 催 場 所	太宰府市役所 3 階庁議室
4 出 席 者 名	森委員、赤松委員、下原委員、八尋委員、菊武委員、鈴木委員、島田委員、中山委員、柴田委員
5 議 題	【議事】 ①令和 6 年度太宰府市歴史的風致維持向上計画（第 2 期）の進捗状況について
6 内 容	
	（開会）
	【議事①-1】 令和 6 年度太宰府市歴史的風致維持向上計画（第 2 期）の進捗状況について
事務局	※事務局より内容説明
委員	太宰府天満宮参道の改善検討について、点字ブロックは障がい者の方の意見は聞いているか。実際、色により不便を感じているなど意見はあるのか。また、トランスが気になるが、ここにある必然性はあるか。また、移動する予定はないのか。
事務局	点字ブロックについて、障がい者団体の方と直接話はしていないが、点字ブロックの会社と話をしたことがある。やはり、弱視の方は色の濃淡で判断されており、点字(凹凸)だけでは不十分とのことだった。現在、景観に配慮した点字がないかと検討している状況であり、設計会社からは今の参道にある黒色に点字だけでは不親切との指摘を受けている。今後、実際どうするのかは、関係者と協議を行っていきたい。 トランスに関しては、配線や費用面、住宅地へ移動となると借地の問題がある。 天満宮参道の場合は歩道上にあるため、移動せずに修景で活かせるのいではないかと

	いう点と、このエリアは車が通るので防護柵がいらないのかという話は聞くが、防護柵をつけると景観上がどうかもある。トランスがコンスタントにあることによって、車道と歩道の分離帯というイメージになり、活かした修景が出来るのではないかなと思う。
委員	車道が石畳になっていると、歩道と勘違いしている人がいて危ない。車道を普通の道路のように出来ないか。車が通れば傷むし、人も入ってくる。どちらかを規制してはどうか。
事務局	石畳ではない選択肢も検討する。アスファルト、脱色舗装、半たわみ舗装など色々あるなかで、地元の方とも協議し、その後のメンテナンスのことも含めて検討しないといけないと思う。
委員	ベビーカーと車椅子の方が通行しやすい歩道が、今から必要になってくるのではないかなと思う。私も思うが、歩いていると引っかかる。せっかく修繕を計画されているのであれば、視覚障がい者だけでなく、ベビーカーや車椅子がスムーズに行けるような材質を考えていただければと思う。
事務局	引っかかるというのは、傷んでいる所だけでなく、きれいな場所もそうなのか。
委員	歩いていると、きれいな所でも、点字ブロックにどうしても引っかかってしまう。全国的な問題であると思うが、ユニバーサルツーリズムやっている中で、こういった点にも配慮しているとすれば宣伝にもなると思う。
事務局	その点も踏まえて、現状でのベストに近い形に改善できればと思う。
委員	春日公園のランニングの舗装はものすごくクッション性がある。あのようなものにできないか。
事務局	使いやすさと景観とひとまとめに考えると落としどころが難しいが、それを踏まえて考えていきたい。
委員	現況の参道の整備はいつ行ったのか？
事務局	昭和 63 年から平成元年にかけて実施した。その後は、部分的な補修で現在に至っている。
委員	次に整備したものは、またこれから 35～40 年付き合っていないといけないので、よく検討されるとよいと思う。先ほど車道が車道(黒)の色をしてないから危険があると話があったが、写真を見ると車道と歩道の色が逆になっている。トランスの話だが、

	子供が絵を描いたり、万葉歌が書かれたりしているが、これが逆に景観阻害になっているのではないか。普通にトランスの機能的な色にしておけば、逆に目に入ってこないのではないか。また、事業範囲は、太宰府小学校入口の交差点で止めないといけない。そのことで新町へと曲がる道路が視覚的にとらえられ、本来の町割の歴史認識できるのではないか。
事務局	現在車道の石畳は小学校下の交差点で止まっている。歩道のタイル張りが大駐車場前まである。歴史性を考えると、タイルは交差点より西側は普通の歩道にした方が良く考えている。今回もタイル張りとか石畳は昔の地割に沿った所で止める。しかし、事業としてはそこで切るわけにはいかないのと、点字ブロックが大駐車場付近で終わっているんで、連続性を持たせるということで、事業としてはここまで展開している。
委員	点字ブロックは黄色なのか。
事務局	現段階では全く決めていない。機能性を考えると黄色ではないかと思っている。
委員	段差の話解消できないのかと思う。弱視の方はコントラストの違いで認識しているという話なので、最近では光ファイバーの昼でも光るものが30cm幅で付くものや、街灯の上に太陽光発電装置をつけて自家発電するとか、光ると光らないところとか。言えは言うほど費用がかかるが、太宰府にとって、ここは予算を削るところではないと思っている。黄色じゃない色をぜひ検討していただきたい。
事務局	検討にあたり不明な点があれば、お尋ねする。
委員	古川家について、改修前と後で2階部分がずいぶん変更になっているが。
事務局	重要文化財的な復元とまではなっていない。現在外観は写真のようになっているが、建物内部から見ると壁の裏に窓があり、復元する計画になっている。現在柱が何本かあるが、修理図では途中が抜けている。この柱は、実際柱状の板を張り付けている状態なので、それを剥がして元の状態に近い形に修理する計画となっている。
委員	2階の北側の壁、柱が2本無くなっている。ここは無くなってはいけないと思う。また、修理をした壁の前にまた自販機を置くのか。
事務局	自販機の移動予定はない。2階を中心とした修理であり、柱はベニヤ板で打ち付けられている状態で、柱が真壁造のように壁にめり込んでない。これが何のためなのかは、鉄板を剥がしながら調査検討していく。
委員	2階の柱が見えてはいけないのかもしれない。大壁造かもしれない。

事務局	進行しながら検討する。
委員	サインのことだが、新しいものは古いものに準拠したものか全く新しいデザインになるのか。サインは色んな所が建てていて問題になっているが、その辺の協議は進められて、全体の統一されたものが建つのか。また、日本遺産のものは、全然違うものが統一的に立っているが、それとの兼ね合いはどうか。
事務局	統一的なものは、サインのガイドラインを作っている。4通りくらいあり、現場事情によって変えている。昭和の頃に設置した木製のものを換えようという中で、耐久性のある鋳物作りとか、ステンレス製のものに変えていっている。全体的に見ると、統一性が取れていないように見えるが、ガイドラインに沿っている。木製ではない陶器で作られた耐久性があるものなど、ガイドラインから逸れたものも残っている。 今年度実施する蔵司跡のサインと月山東官衙跡サインについて、特に月山東官衙跡サインは交差点付近でもあるので、近年、史跡地内の統一しているステンレス製の腰折れの説明板に変更を考えている。板面についても、今後統一したデザインで設置出来るようにと考えている。内容について、写真や図面を取り入れ、多言語を用いたものを検討している。日本遺産の説明板は福岡県が事務局を務めていて、統一したデザインを設置している。それに合わせた形で設置していきたい。
委員	県が建てている大野城とかと統一性は取れているのか。枠の色、文字のスタイル、英語や中国語をつけるとか。
事務局	事業が長いので、厳密にいうと20年位前に設置したものと今のものでは外国語などは統一性が取れていない。ガイドラインがない時代に作った耐久性のあるものもあり、長い事業の中で不統一感が出てきているのは確か。先々、統一ができるよう、観光推進課、文化財課、都市計画課で協力しながら進めている。
委員	古いものを撤去して統一したものに作り変えているということか。
委員	ゆくゆくはガイドラインに沿った形になるということか。
事務局	今はそう思って進めている。
委員	外国語は二次元コードを付けると見た目がすっきりするのではないか。
事務局	日本遺産の説明板については県で統一されたデザインのものが設置してあり、二次元コードがついている。しかし、文化庁から二次元コードのみではダメだと指摘がされている。日本語と英語はしっかり書いて、その他の言語を二次元コードというのはあるのかもしれないが、英語とか外国語をしっかり書いてほしいという外部からの意見

	もある。
委員	保存協会は解説員をかかえて、市内の解説をお願いしているが、ぜひサインが変わる際には事前に箇所と内容が分かった時に、保存協会にも連絡がほしい。
委員	学校院跡のサインであるが、橋を渡って行かなければ見られず、向きも道路側ではない。もっとアピールできる形があればよいと思う。散歩道沿いのものについては道路脇に設置してある。
事務局	県道脇のサインの向きについては、橋の整備を含め、歴史的風致向上計画の初期に行ったもので、元々は少し離れた場所に説明板があり、その横に橋があり個人の土地を通らなければいけなかったため、橋を付け替えた経緯がある。説明板は水路を挟んであったので、ちょっと遠いというので場所を変えることになった。向きは前のように道路に面した形でつけると景観を遮蔽してしまう。せっかく見通しがいいので、景観を害さないよう設置にした。逆に言うと、観世音寺から来た人からすると、学校院跡が分からないというデメリットもあるかもしれない。説明板については今後再検討することは可能である。 板面が傷んでいることについては、説明板の枠自体がまだ使えるものは色の塗り替え等をしながら板面の張替えを計画的に行う。
事務局	補足だが、板面の貼り替え程度では補助の対象とならないため、文化財課の予算で順次替えるということになっている。よって歴まち事業に計上していない。
委員	この協議会は今年度またあるのか。
事務局	3月に予定をしている。
委員	サインの話について、年明けに工事予定となっているが、委員は事前に確認することはあるのか。
事務局	予定はない。
委員	位置、板面、統一のデザイン等、県で決められているものがあると思うが、それがどの辺りで決められているのか。歴まちの協議会ではない、景観審、産業振興、観光など、客観的に決める機会や機関があるのか。この協議を経て、担当の中で決めて、それが据え付けられるのか。そこの流れがよくわからない。ここで意見して、どう変わるのか、いつも疑問に思っている。 また、サインという言葉が包含されすぎていると思う。史跡など敷地の中に物を入れる時は、サインと言わずに案内板、説明板と機能を付した呼び方が良いと思う。公共空間、道路上に置くものはサインや誘導板など、機能分類されたものに対して、また

	デザイン構造がそれぞれあるなど説明があったうえで、今回は文化財の敷地の中に理解を深めるための説明板を付けるので、長文化する、多言語化することが必要だという説明があれば、我々も意見がしやすいと思う。
事務局	主に文化財の説明板、観光サイドの誘導板、それに関連して駅前や道中、主要箇所に地図といったものをサインとして、市の事業として統一的に行っている。客観的に議論しているのは、本協議会のみかもしれない。基本的に立て替えを中心にやっており、文化財であれば新たな遺跡の説明板を設置する場合、担当課で決めている。客館跡のような大々的な新規の遺跡だと、遺跡の委員会があるのでその中で議論している。この場でしか客観的な意見はいただけない状況であり、もしくは個人的に言っていたくしかないのが現況である。
委員	どうしても文化財、都市計画になってくると、近視眼的になってしまう。少し頭を柔らかくしてはどうか。ユニバーサルツーリズムの話だと、バリアフリーばかりでなく、サインや解説板など、すべての人が見やすいとか。どうしても専門的になるとセオリーみたいになるので、社会実験的に近所の人を呼んだりしても良いと思う。
委員	いつも会議に出て議論したことが、次の会議ではこうやりました、ということになっていて、このようにやりますという会議はない。それで残念な結果が今までにいくつかある。今回も参道のいろいろな議論をしたが、次の会議では、このようにやろうと思う、というような報告が頂けるとありがたい。
事務局	参道に関しては、現在は設計段階である。スムーズに行けば、今年度設計が決まり、予算がつけば次年度工事になると思うが期間ありきではなく、先を見据えた形で今の中のベストを求めてやっていこうと思う。
委員	我々が出した意見がどう反映されたか、されていないのか、この会議によって、どこがどう変わったかが、見えないうちに最後の結果が出てくるので、その辺の過程や説明があってもいいと思う。
委員	この会議は会長の名前で招集しているが、結果会長も知らないままに実行されてしまう。会議を開く時間がないのであれば、せめて会長だけでも報告があったらどうかと思う。
事務局	今後相談をしながら、必要に応じて、検討していきたいと思う。
委員	説明を受ける場を作っていただければと思う。会長は、事務局から会議の前に資料作りなど事前に説明は受けているが、会長、副会長等と、過程や課題など議論して、その上でこの委員会の資料を作るという流れもよいかもしれない。

委員	事業を実施してしまった後に批判するようなことは避けたい。我々も少なからず責任の分担をさせていただければと思う。
事務局	この会議ではない場でも、皆さまに意見を聞いていきたいと思う。
委員	規則をつけて頂いているが、我々のミッションがここまでだというのは分かっているが、やり取りの中でどう反映されたかを説明していただければと思う。
事務局	次回は来年３月を予定している。 (閉会挨拶)